

変革の時代「令和維新」

## コロナで露呈、日本の限界

「ベースボール&スポーツクリニック」医師・馬見塚尚孝氏㊤

JML大会の目的は「野球を通じて医療従事者の心身を癒す」です。医療従事者がスポーツに親しむ意義とは何か。野球ひじをはじめ、スポーツ障害の診断・治療の第一人者で「ベースボール&スポーツクリニック」（川崎市）の整形外科医、馬見塚尚孝さんに2回にわたって聞きました。

——新型コロナウイルスのワクチン接種が進んでいますが、これまでの政府の対応をどう見ていますか？

◆コロナ感染症患者の医療機関受け入れ状況に関して批判的な意見もありましたが、受け入れる病院にとっては二次感染対策やスタッフのスキル向上、そして運営の観点から様々な課題をクリアしなければならない状況でした。例えば、専門的感染症対策のスキル獲得や重症者への対応システムの構築などの準備に時間を要しますし、コロナ患者を受け入れる場合 ベッド数を減らさなければいけないなどの制約への対応も必要になります。この人材育成やシステムの導入、運営へのサポートなどについて、国が全力でサポートしますというアプローチが早ければ良かったのではないかと思います。

——政府の対応は稚拙だったと？

◆政府だけでなく、我々医療者も、さまざまな問題について臨機応変に決断し対応することが求められたと思います。これは、政府から国民へトップダウンで指示が動くピラミッド型システムの限界が露呈したのではないのでしょうか。

——日本型の決定システムでは対応が間に合わない？

◆フレデリック・ララー(ベストセラー「ティール組織」の著者)によると、現代のピラミッド型組織であるオレンジ組織から、それぞれの人材が自由によき判断をできるティール組織への進化が必要とされています。ティール組織のようによき行動をした組織を迅速にサポートする仕組みが必要なんだと感じた次第です。そういう意味では、武士の特権といった江戸時代の常識が明治維新で否定されたように、今は時代の変革期で「令和維新」なんだと思います。(㊤へ続く)